

行われた。大会では、3つのテーマセッションとともに国際セッション、ポスターセッション、ラウンドテーブル、そして2日目午後には日本学術会議社会学委員会社会理論分科会と共催で公開シンポジウム「日本とアジアの家族—社会調査でとらえる現状と変容—」が開催され、様々な時代や地域の家族を研究対象とした報告が行われた。

当研究所からは鈴木透（人口構造部部长）がテーマセッションに登壇し、全国家族調査の成果をとりまとめた書籍（稲葉昭英・保田時男・田淵六郎・田中重人編、2016『日本の家族 1999-2009—全国家族調査 [NFRJ] による計量社会学—』東京大学出版会）に対して人口学の視点にもとづいた報告とコメントを行った。

また、このほかにも当研究所からは以下の研究報告があった。

- ・子どもの需要水準の変化とその背景（出生動向基本調査の分析結果より）

—出生意欲の低下と子どもへの教育期待—

新谷由里子（東洋大学）

守泉理恵（国立社会保障・人口問題研究所）

- ・共同体的結婚慣習の衰退と未婚化・晩婚化の進展Ⅰ

—交際相手のいない未婚者の増加—

中村真理子（国立社会保障・人口問題研究所）

加藤彰彦（明治大学）

- ・共同体的結婚慣習の衰退と未婚化・晩婚化の進展Ⅱ

—「見合い結婚から恋愛結婚へ」とは何であったか—

加藤彰彦（明治大学）

中村真理子（国立社会保障・人口問題研究所）

なお、ポスターセッションは今大会より導入されたとのことであった。当研究所からの報告は以下の通りである。

- ・地域と夫婦出生力—合計結婚出生率による検討—

余田翔平（国立社会保障・人口問題研究所）

岩澤美帆（国立社会保障・人口問題研究所）

（中村真理子 記）

## 第13回社会保障国際論壇（中国・南京）

第13回社会保障国際論壇（The 13th International Conference on Social Security）が、南京大学が開催校となって、9月16日から17日にかけて中国の南京市にある南京大学国際会議中心で開催された。今回のテーマは「世界の経済成長と社会保障」であった。この論壇（フォーラム）は、2005年に鄭功成教授（中国人民大学）の発案で日本社会政策学会国際委員会、韓国中央大学などの協力により始まり、以後、日本、中国、韓国の研究者が毎年持ち回りで行っており、今回は中国での開催であった。今回は基調講演のほか、テーマ別セッションとして「医療」、「年金」、「介護」、「社会サービス」、「貧困と社会扶助」、「経済成長と社会保障」、「若手セッション」のセッションが設けられ、研究発表や議論が行われた。これらのセッションでは、医療、年金、介護などの社会保障と人口高齢化に関係する研究報告が行われた。日本、中国、韓国のほか、国際労働機関などの欧米の関係者も含めて300名近くの参加者があった。当研究所からは小島克久情報調査分析部長が参加し、「日本の社会保障支出と経済成長—時系列データ分析と国際比較—」（経済成長と社会保障）について報告を行った。

なお、次回の「社会保障国際論壇」は2018年9月に中国の大連で開催される予定である。

(小島克久 記)

## 第22回アジアメガシティー大学間セミナー天津会議 (IUSAM2017)

2017年9月16日から18日にかけて、中国・天津にある天津大学建築学院にて第22回アジアメガシティー大学間セミナーが開催され、筆者が参加した。この会議は、1990年代よりアジア各国の建築・都市計画系大学等により開催されているアジア・太平洋地域のメガシティに関する年次国際会議で、今年は第22回となった。中国、香港、台湾、韓国、フィリピン、ロシア、日本から、研究者、教員、学部・大学院学生が参加し、エコシティ、都市の持続可能性、都市・建築史、都市再生、都市開発に係る社会状況、緑のインフラ、緑のコミュニティ、土地に根付いた伝統、都市形態と人間活動に関するセッションが行われ、各国の報告とそれに対する活発な議論が行われた。

韓国における単身世帯の増加と世帯主の変化が住宅需要にどのように影響するか、日本におけるタワーマンションの年齢構造に基づいた持続可能性など、人口・世帯構造と都市計画をリンクさせた研究もみられた。また、都市の歩きやすさ (Walkability) の国際比較や地下鉄構内のネットワークが人の流れに及ぼす影響など、新しい融合分野の研究報告が多々あり、アジアにおけるメガシティ研究の拡充を感じさせた。

(林 玲子 記)

## モンゴル国立労働・社会保障研究所および諸機関への訪問

社人研では2015年3月にモンゴル国人口開発・社会保障省の訪問を受けたことを皮切りに、昨年度より、モンゴル国とJICAが実施する「モンゴル社会保険実施能力強化プロジェクト」に協力しており、これまでにモンゴルや社人研における短期研修を通じて、日本の年金および人口推計に関する知見を伝えている。筆者は今後のさらなる協力・連携を議論するために、2017年9月19日から24日にかけて、モンゴルを訪問し、労働・社会保障省、医療・社会保険庁、国立労働・社会保障研究所、国家統計局、トゥブ県社会保険事務所等を訪れ、日本の人口・社会保障に関する講演を行うと共に、JICAプロジェクトや今後の研究連携について意見を交換した。

(林 玲子 記)

## 2017年日本地理学会秋季学術大会

日本地理学会の2017年秋季学術大会が、9月29日～10月1日(10月1日は巡件のみ)の日程で三重大学(三重県津市)を会場として開催された。27セッションで行われた計102件の一般発表に加えて、ポスター発表64件、6つのシンポジウムでの41件の発表があり、その他、地理教育に関する公開講座「『地理総合』と国際理解・国際協力」(日本地理教育学会との共催)が実施された。当研究所からは、小池司朗(人口構造研究部室長)、鎌田健司(人口構造研究部室長)、中川雅貴(国際関係部主任研究官)の3名が参加し、以下の報告を行った：

- ・ 小池司朗・中川雅貴「都道府県別にみた近年の外国人の人口移動パターン」(口頭発表)
- ・ 山内昌和(早稲田大)・鎌田健司・小池司朗「回帰木による人口移動と結婚・出生行動の系列パ